

武蔵弁慶

激動の年のシンボル嫁が君  
雪解の水のささやくひとりごと  
豪商の白壁朽ちて春の雨  
つばくらや古酒醸し出す蔵屋敷  
半夏生竹馬の友と雑魚寝して  
雲の峰天地有情の境地たり  
若き日の淡い心や萩の花

連山を望みて里の柿簾  
山紅葉山の匂ひの里にまで  
はつしもを長靴で踏む幼き日

.....

ト人生の第二ステージを何か知的な遊びをしようという趣旨でスタートした。  
始めは一年もつかと危惧したが、二十四回続いている。会が増すごとに内容が充実し会員がお互い学びあう喜びを共有するようになっていく。  
これは、メンバーがそれぞれ豊かな学識と経験を有しており、それが相乗効果となつて高次元の集まりとなつていくからなのだろう。  
本句集は、未熟なものであるが病にある先生に読んでいただきたく纏めた次第である。大いに喜んでくれると信じている。  
本会は、東京の鬼城一派の一つの拠点としてさらに発展させていきたい。